

名桜大学地域連携事業『中学生の夏休み課題の学習支援』報告書

本学は、名護市大西区と連携に関する協定を結び、子育て支援や学習支援に継続して協力しています。

大西区は平成25年度より「名護市ちばる地域提案事業助成」を受けて『にしこうカラハイ子育て支援事業』に取り組んでいます。「にしこう」は大西区公民館の通称で、「カラハイ」は羅針盤を意味しているようです。

これまでは、こどもの居場所づくりを目的として学習後にゲームやスポーツをしたり、夏祭りなどのイベントを開催したりしていました。今年度は、「名護中学校と連携して夏休みの中学生の学習支援を取り組む」という大西区の事業を、名桜大学数理学習センターのチューターが協力して取り組むことになりました。これは、中学生の学習支援が必要ではないかというチューターの要望に応じて、大西区学習支援部が企画してくださいました。

チューターは、夏休みの数学と英語の課題を事前にもらい解答の準備をして臨みました。また、チューターが数学の確認テスト（夏休みの宿題の中から10題出題）を作成・実施し、生徒が解けなかった問題について個別指導を行いました。また、確認テストが終わった生徒は、それぞれの課題や宿題を進め、他の課題や宿題についてもチュータリングを実施しました。3年生は数学の応用問題について演習形式を60分間実施し、ここでも支援が必要な生徒を中心に個別指導を行いました。内容は以下の通りでした。

受講生やチューターの感想から、双方にとって有意義な勉強会であったことが分かりました。継続して勉強会を実施したいというチューターの要望もあり、今後検討していく予定です。

期 間：平成30年8月9日（木）、10日（金）、13日（月）、14日（火）、15日（水）
時 間：9・10日：11～12時、12時～13時（1時間単位で2コマ実施）
13～15日：8～9時、9～10時（1時間単位で2コマ実施）
場 所：名護中学校 家庭科教室、数学教室、英語教室、その他の教室（日によって異なる）
内 容：部活単位で夏休みの宿題の学習支援を行う。
結 果：5日間で参加した生徒数は延べ176名、延べチューター人数18名
参加した部：男子バレー部、ソフトテニス部（男子）、吹奏楽部（女子）、美術部（女子）



写真1：趣旨説明とチューター紹介



写真2：数学確認テスト実施中



写真3：学習支援の様子

<事後アンケートの結果>（データ提供は大西区の学習支援部担当者）

質問：大学生が学習をサポートすることについてどう思ったか。

回答：自分の役に立った（85.4%）、サポートは受けなかった（11.0%）、その他（3.7%）

「自分の役に立った」の理由は、問題のまちがっているところを一緒に見直して自分がどこでミスをしているのかわかった。その問題の一つ下の問題を例題にしてヒントの与え方が上手だと思った。教えてもらった方が自分ではわからない所もわかるから。優しく接してくれ、個別の指導がよかった。楽しく問題が解けた。細かい所まで教えてくれた。分からないところをしっかりとやり方まで教えてくれた。難しい問題もわかりやすく教えてくれて、とてもわかりやすかった。わかりやすく教えてくれて楽しかった。忘れていたこと（数学の問題）が思い出せた。分からないところが分かるようになって学習能力が向上すると思った。自分が理解していない問題や弱点が見えた。簡単な求め方を知ることができた。割合のやり方がわかった。

「サポートを受けなかった」理由は、自分でできる問題だったからがほとんどであった。

「その他」は、遅れての参加のためよく分からなかった。

◆ チューターの感想

- ・中学3年生は思っていたより解けた。部活単位での強制参加のわりには集中していたと感じた。
- ・周りの生徒を邪魔するような行為については注意をした。生徒同士で教え合うときもありよかった。
- ・ひとりがチュータリングにより理解した後、周りの生徒に教えるような波及があった。
- ・中学生だと教えたときに、分からなくてもなかなか聞いてくれないこともあったので、気をつけてチュータリングを行いました。数学が出来ない生徒とできる生徒がいて、できた生徒ができない生徒に教えていたりして、こういう形で夏休みの宿題をやるのは良いと思った。
- ・中学生が大学生に教えてもらうという取り組みは少ないと思うので、いい機会だったと思った。